



英会話への誘い

平 間 洋

（平間洋の自筆）

理

我因は外国語教育の普及という点では、相当進んだ国であつた。にもかかわらず、我々の話し言葉の貧弱さは不思議な位だ。

最近、英会話の必要性も多くの人々から呼ばれているが、その地位は依然、低いようである。学校教育は高級なシエクスピアや難解な文章を読む事にも重点を置き、それを誇りにさえ思っているのが現状ではなからうか。

大学教育を入れて九年間も英語を学びながら、摺換一つ出来ないような教育、知っているのは 'Indigency' 'Neuroshenic' の様な難解な語ばかりで、これらの言葉を一年にはたして何回使うだろうか。

昔はこれでも良かった。交通も発達せず、話しをするよりもむしろ読む事に重点が置かれていたのだから。しかし今日は違う。

先日、チリーの士官候補生の訪問があつた時だが、相手は英語を二年間しか習っていないのだから、そのボキャブラリーも微々たるもの、そうかとゆつて、こちらもスペイン語は全然、セニョリータ・セニョーラだけではどうなる事かと察していたが、どうして、結構通ずる。フリゲートがフラガタだつたり、それに得意のセステア語を混ぜれば大袈褁の話は出来る。会話に大切なのは勘であり、語学のコツである。

しかるに大部分の人は相変らず難解な文に頭をなやまし、一年に一回使うか使わない単語の記憶に全精力を消費し、「英会話、あれは心臓で話すのさ、外人なら赤ん坊だつて話せるではないか」と我々を軽視し、外国語の読める事を一種の文化的アクセサリーの如く考えて優越感をいただき、外国語を話す人をキザなそして真の語学の實力の低い人の様に考えている。

私はあえてそおいう人に聞きたい、それは赤ん坊だつて英語を話す、日本語だつて同じ事だが話して馬が合うという事がある。教養の低い友人と話す時、感ずる知的レベルのギャップ、同輩間でも話し下手な友人との会話、英語もこれと同じだ。

教育程度が変れば話題も変る、センスも違う、私の経験からしても、どうも水兵さんとの会話は苦手だ、話題が狭くウィットが無く、先日のブルトラーの応待には話題探しに汗が出た。

会うごとに「今日はお天気が良い」とか「今日は寒いですね」等と何度くり返したところで決して心の友は出来ない。心と心が触れ合う会話、そのような事を目標に夢声の如き話し上手になりたいという夢を抱いて三年間、大部、訓練部のオジサン達から異端視されたが続けて来た。以下は私の歩ゆんだ道であり、その経験であるがこれが英会話勉学の一助ともなれば誠に幸いである。

まず動機だが、これは一に良き教師、鳥袋助教に恵まれた事による。——高校、予備校でも五〇点以上の成績を取つた事のない私、英語の大嫌いだつた私に英語の重要性、英語への興味を与えて下さつた教官の熱意と誠意に動かされたといつても過言ではない。この様な訳で初めた時の實力は〇、まずは単語からと毎日二〇平均覚えようが覚えまいがカードに記入し、二、〇〇〇位を一年位の間に

覚えきつボキャブラリーを一応六十七、〇〇〇位まで上げた。カードには唯「distinct……分ける、分離する等と書かず distinct……separate, not the same, different in quality or kind. "Nice are distinct from rats" と例文まで上げ、こうする事によりその単語の有様使用が不可能となり、又実際非常に役立つ。単語と平行して毎日松本、平川両氏の放送を一年半位続け、そして暇さえあればR・E・N放送を聞く様に努めた。このおかげでその年の十月頃には天気予報、ニュース、ドラマ等も大部聞き取れるまでに進歩したとは言え、話す方は依然「Good morning」「Thank you」「Good bye」程度でその年は暮れてしまった。

以上の様な事は高校で習うところであり、諸兄の実力なら不要な時期だろう。

だがこの時期の勉強いかんが将来の英会話の上達速度、深さ、品位を大きく左右するだけに大切な時期だ。街の女が何時までたつても「Baby English」しか話せない理由がここにある事は明らかだ。

その他文法、作文、発音とまつたく高校の焼き直しに終つてしまつた。

次が段階的には上廻りむゆる児童期で「ママバーバー」の赤ん坊語から「マオナカスイタヨ」と変る時期、そろそろ外人をつかまえて片言の会話が初まる。この頃は外人さえ見れば話したくて、良く話し掛けたが、今考えるとどうも冷汗が出る。とにかく日常の慣用語を覚える事だと「Would you mind saying that again?」「How do you do?」「Please speak more slowly」等覚えなければ、これだけではなつぱり会話にならないので、次の如き迷案を考え、

いつ誰に会つても、又相手が何んと答へようが、わが道を往く総て作戦通り実行した。一例を上げれば「Cadet……」「Hello gentleman, I am a cadet of the National Defense Academy, I am learning English, and I am very interested in it, may I practice my English conversation with you?」と初まらば、

Gentleman……「Yes sure」この位なら分かる。次が「Cadet……」「When did you come to Japan?」「Gentleman……」「ピーチクパー……」何をいつているのかさっぱり分からない、それでも相手の話しが終ると直ぐ次だ、ぐずぐずしてはられない相手に質問でもされたらそれこそ謙沈だ。Cadet……「Where did you come from?」「Gentleman……」「I……came……California?」今度はカルホルニヤだけ聞きたれた。

この様に質問を十問位絶えず用意して、できるだけ話し掛ける事に努めた。

これによつて自分の英語が外人に通じた喜びと自信を得た。これはかなり会話の壺を覚えるのに役立つが、どうも警官の職務質問みたいで気がとがめた。

それに相手は何んといつているのか、全然聞き取れないのだから随分派手な失敗もした。

第三期（二年後期）少年期だ、やつと自分の考えを相手に伝える事のできる時期で、本当の会話はここからだと思う。大部分の人はこの少年期の英語に満足し、英語のオーソリテイのつもりでいるのでなからうか。唯自分の思想を相手に伝える位なら簡単な。「I……to……」の構文さえ知つていれば用が足りる。

例えば「約束を破るのは悪い事だ」「友人を選ぶ事が大切な」等

殆んどこの構文で間に合う。しかしこれだけでは余りにも貧弱なので、その外に ".....so.....that....." "Not only.....but....." ".....to.....too....." 等四〇五〇の基本構文を覚え、自由に使いこなせる様、この時期には英作文に重点を置いたが、これだけでは意志を通じさせるに精一ぱい。これを更に高度にする必要がある。大学を計算に入れば九年間も英語を習つて来たのだからと、まず自分の貧弱な英語を高く評価させる方法は無いかと、色々考えた結果、諺、格言、名句等を会話の間に、はなむに限る外人のたどたどしい日本語の合間に「猿も木から落ちる」「安物買いの銭失しなり」等という言葉を我々が聞く時の驚き、それと同じ理屈だと、一、二ばかりの格言、諺を例の如く。

"A woman and melon are hard to choose."

"A woman's mind and winter wind change often"

"A woman's nay is no denial"

その他成句

"Above all..... most important"

(You must, above all, be loyal to our word.)

"As it were.....in other words, so to speak"

(He became, as it were, a kind of hero.)

等単語カードに記入一生懸命覚えた。又雑言、驚きの表現、色々の言葉、いい廻しが有りそれが発音、イントネーション、モンによつて異なるのだからさうかした。"Well" から初めいっ "Oh I see," "Let me see," "Good gracious," "Oh dear," "Really," "In fact," "By the way," だがこれらの成句、格言、雑言、言葉は会話をスムーズにし、潤滑油の働きをするが、雑言をよめて遊んでいる

のではいけない相手の風俗、習慣、歴史、国民性を知る必要がある。言葉の裏の意味、歴史的背景を体得しなければ血はわかない。

我々には好意の意味のオリエンタルスマイルが媚に取られたり、笑えぬ悲喜劇がここから生れる。我々言葉にまつた時テレかくしの笑いというのがあるが、外国人には不可解であり、よ程気をつけないと相手の気持ちを害する。

これらこれらの国民性、習慣等を知るには何んといつても聖書を讀むのが第一だと思う。"Pearls before the pigs," "Enter to straight gate" "Love Your enemies" "An eye for eye, and a tooth for a tooth," 等日常の言葉の多くが、ここに源を発している。英語を学ぶ者にとつて聖書を必読の書だろう。それが出来ない時はマタ、イ伝だけでも目を通すべからう。

その他シエクスピアの名作や欧米諸作家の小説も出来るだけ読め、上手な表現や気づいた事をメモして、それを適当に変えて利用すると仲々味な会話出来る。Oregon trail (parkman) 中に "Five minutes walk bring me here" とある。普通の日本人だつたら "It takes five minutes by walk," といいたいだろう。

映画の題名等も是非覚えて置かないとこんな苦労をする。慕情が "Love is a many splendored thing" 裸の天使 "The leather saint" 狙われた女が何んか "The unguarded moment" じじい、慕情で苦勞した。直訳しようとした点に問題があつたのだが、"Passion of yearning" じじい "Yearning of passion" でも通じない。これに比べれば "The king and I" なんかは純情な方

二。

それ政治、経済、文學、軍事等の専門語、これらは毎日気がつき次第辞書を引き、その語源、略等をノートに取つて置かぬ限り時々覚える機会がなからぬ。私のノートから二三例を拾つて "Eye Right" 「頭右」に初めいて About face (廻れ右) Dress right dress (古えならえ) それに

SEATO (South East Asia Treaty Organization)

GATT (General Agreement on Traffic and Trade)

UP (United Press) AP (Associated Press)

NATO (North Atlantic Treaty Organization)

(nuclear reactor), (Sterling area), 間違えは "atomic stove"

"Communist area" 等と訳をなごうだ。

又 "Churchill" "Eisenhower" "Nehru" "Nasser" 等の有名な人のスベール等も出来る限り覚えて置くべきだろう。私の下手な発音のせいもあるが、人名、地名は仲々通せずよくスベールを聞かれた経験がある。

いずれにせよ一言にしていへば英会話も日本語と同じで、話題が豊富で、常識を習得しない事には話にならない。

「彼女の性格アリサみたいだな」「いやマンタイブだ」等という会話を聞いて、その著者、概要、主人公の性格位まで一応心得得ているだけの常識が必要だ。

私の例で恐縮だが、面白い会話にこんなのがあつた。

一、あるパーティーで知り会つた夫人が答えて曰く

"Please come my home and have a dinner with us"

"To go or not to go that is the question"

二、電車の入口がとても混み合っている時

"Enter the straight gate"

三、そしてついに乗り遅れた時

"Blessed are they which lost the train, for they shall get next one"

最初が有名なハムレット次が「狭き門」その又源は三と同じマタイ伝から、会話は長いだけが能ではない、端的に盡を心得てそれを狙う事も大切な要素だ、E・S・Sなんかで英語の天狗になつた連中はよくこの点で失敗する。なまじ英語が出来るのを岸にかけ得々としてしゃべる人より控え目に受け答えしている方が床くゆかしく思はれるのは日本人だけの感じではない。

さて常識々と書いたが、次ぎに有るのは英米の新聞、雑誌、地名、商品名等であるが、はたしてこの内どれだけ知っているだろうか、ここで試してみるのも面白いだろう。

(Collier's, Coroner, Life, Esquire,)

(Dunhill, Ronson, Zipoo,)

(Memorialday Independent Day, Halloween, Lord mayer's

Day, Armistice day)

(Oakridge, Lombart street, Wall street Los Vegas Los alomas)

(The Newyork Times, Chicago Tribune, Saturday Evening

Post)

我々が朝日、毎日と聞けば直ぐにその編集方針、内容まで一応心得るが如く The Newyork Times, Chicago Tribune. の発行部数、性格まで一通り知らない限り、どうして立派な会話が出来る

「Los Alamos」や「Oakridge」が東海林村、Lombart street「Wall street」が兎町に当る訳だ。

又 Economic, Economical, Each, every, both, and, estimate, calculate 等の相異、米語と英語 The first flow—The second flow, fall—Autumn Commencement—School speech day, 簡単な様で仲々面倒な問題だ。

以上のように進むに従がい、英語の難かしさに負け、やたらに口も開けなくなる。

こうなると外人と話すのも苦痛になり、英語も老年期というところだろうか。

他人のミスを探して楽しんだり、どうも趣味が悪化する。これが一番面白いのは水兵と日本娘だ。「You ne come my home yo, ok ne? まじたく世紀の傑作、退屈な車中を楽しませてくれるし、又駅やレストラン、バー等の誤字探しも仲々勉強になる。「Come here my boy, music! dancel drink!」……Bar Cherry 「Enjoy with me! You will be satisfied your desire!」……Bar Zero. Bar Butrin, Bar Los Vegas, Bar lady's trown, Bar Suez, Club x, Bar Sasebo. これだけの惱殺文や看板を見ているだけで、つい気の小さい私なんか一つ入いつて冒険を試みようかという衝動にかられる。

まあ以上が私の現在まで行こつた英会話の勉強法であり、色々な経験である。

今顧えり見る時、自分も随分変な事に熱中してしまつたと感慨無量だ。

八つさん、クマさんから初まつて夢声の如き話しの名人にはなれなかつたけれど、四年間の防大生活を将来振り返つて見る時、一番印象に残るのが、この英語部の活動であり、英語劇のミスター・ロバーツ上演であらう。

日暮れて道遠し、何日までやつても限りがない、これが英語の魅力だ。今後も暖める限り続けて行く覚悟である。

